

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（総合芸術コース音楽文化専攻 ）

項 目	映画音楽史・ミュージカル映画	対象学年	2年	場所	音楽室
テーマ	映画における音楽の歴史・機能・伝統的なスタイルについて				
講 師	神戸大学大学院 博士後期課程 肥山紗智子				
日 時	2024年11月27日（水）、12月11日（水）				
<p>講義内容</p> <p>キーワード：</p> <p>映画音楽の歴史・機能・分類、ミュージカル映画の歴史・スタイルの継承と変遷</p> <p>第1回 映画音楽史</p> <p>① サイレント映画時代の音楽 ー音楽の必要性</p> <p>② トークー黎明期の音楽</p> <p>③ シンフォニック・スコア時代の産物</p> <p>④ 映画の音／音楽の分類 ー映画の音／音楽による多様な表現</p> <p>第2回 ミュージカル映画</p> <p>① サイレント映画時代の音楽映画</p> <p>② 歌うことの不自然さからの解放</p> <p>③ ミュージカルの「映画」化を追求した人々</p> <p>④ スタイルの継承と変化</p> <p>この講義では、基本的に音楽を映像から切り離さず、映像との関係性について解説する</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>本講義では、1920～50年代の映画、特にアメリカ映画を中心に扱いますが、そのような古典的な音楽（音響）演出の技法が、それ以後の作品でどのように継承されているのかについても触れたいと思います。皆様が現在の映画とその音楽も、より面白く鑑賞できるような内容になるよう努めます。</p>					

神戸市シルバーカレッジ シラバス

項目	音楽文化専攻	対象学年	2年	日程	令和6年11月13日
テーマ	音・ひと・くらし -身近な音響学 II-				
講師	阪上公博(神戸大学大学院教授)				
講義内容					
<p>1. ねらい</p> <p>みなさんは主として音楽文化の理解を深めるために、音楽に関連する諸学を学ばれるわけですが、音楽のもととなる「音」そのものについて、理解を深めることで、人間と音との関わり、ひいては音楽との関わりへと、さらに幅広い知見を身につけていただくのが狙いです。</p> <p>2. 主な内容</p> <p>本講義では、テーマを「音・ひと・くらし」と題して、さまざまな場面での音と人間の関わりを考えてみたいと思います。「音」は物理現象であると同時に、耳で感じる聴覚事象でもあります。本講義では身近な音の話題を取り上げます。</p> <p>(1) 街の音環境</p> <p>音が人間のくらし、そして街、ひいては社会にどのようにかかわっているか、音環境学、都市音響学と呼ばれる分野の立場から、ご一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>(2) 「音のデザイン」をデザインする</p> <p>音環境を設計する「音のデザイン」は、人の暮らしにかかわるもので、音響学の中でも重要な分野です。その「音のデザイン」を、さらにデザインの優れたものにしていくことが、昨今のトレンドになりつつあります。その取り組みをいくつかご紹介します。</p>					
講師からのメッセージ					
音響学にはさまざまな分野があり、広範な広がりがありますが、当科目では人の暮らしとの関わりのあるトピックを取り上げて紹介する予定です。					

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	コース	専攻	対象学年	2 年
講義日	令和 06 年 09 月 11 日(水)			
テーマ	20世紀の音楽 I			
講 師	宇野文夫			
<p>講義内容</p> <p>クラシック音楽をルーツとする西洋の芸術音楽は、20世紀以降その様相を大きく変化させていきました。それは、芸術家を取り巻く世界の大きな変化が、芸術の表現にも大きな影響を与えたためと言えるでしょう。音楽ではクラシックを支えていた理念(ものの感じ方、考え方)が、時代や社会の変化により新しい時代の創作を支えるものではなくなっていきました。そして作曲家達は新たに、時代に相応しい表現を模索していきます。</p> <p>この「20世紀の音楽 I」では、19世紀から20世紀にかけて活躍した作曲家達を取り上げ、クラシックとは異なる新しい創作表現の軌跡を辿ります。交響曲と歌曲のグスタフ・マーラー、印象主義のクロード・ドビュッシー、無調から12音技法に進んだアルノルト・シェーンベルクとその弟子であるアルバン・ベルクとアントン・フォン・ウェーベルン、アメリカの実験音楽の祖チャールズ・アイヴズ、原始的な舞踊音楽で知られるイゴール・ストラヴィンスキーといった作曲家達を中心に、紹介し解説していきます。</p>				
<p>講師からのメッセージ</p> <p>クラシックのような音楽が20世紀に入ってから作られず、なぜ作曲家達は新しい表現を志向してきたのか、ご一緒に考えてみたいと思います。</p>				

シルバーカレッジ シラバス (総合芸術コース音楽文化専攻)

項 目	合同合唱	対象学年	1～3	場所	音楽室
テーマ	3学年合同合唱(1)～(4)				
講 師	斉田好男				
<p>講義内容</p> <p>学年を超えて全員合同の「合唱」を行う。</p> <p>合唱のレパートリーとして、少人数の方が適している曲もあれば、それなりの人数を必要とする曲もある。</p> <p>ここでは1学年のクラスによる合唱と異なる、多人数による合唱の響きを経験し楽しみを味わうことを目的とする。</p> <p>オペラ合唱なども含み、2～3曲程度を選び仕上げる。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>3学年全員で合唱をすることから生まれるコミュニケーションにより、音楽文化専攻生として共通の自覚を持つこととなります。100名くらいによる大合唱はなかなかの迫力を持つのではないのでしょうか。</p>					

シルバーカレッジ シラバス (総合芸術コース音楽文化専攻)

項 目	管弦楽	対象学年	2年	場所	音楽室
テーマ	管弦楽について(1)~(4)				
講 師	斉田好男				
<p>講義内容</p> <p>管弦楽（オーケストラに）について概観し、代表される名曲を時代を追いながら視聴することにより理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バロック時代以前 2. 古典派 3. ロマン派民族学派 4. 近現代 <p>他</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>一言でオーケストラと言っても、弦楽器を中心とする時代、木管楽器が入り、金管楽器が活躍し、そして多くの打楽器奏者を必要とする音楽へ変遷していきます。当然演奏者数も増え、サウンドも変わっていきます。また、交響曲・協奏曲・前奏曲など様々なジャンルの管弦楽曲を楽しんでください。</p>					

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	2年
講義日	令和6年6月26日(水) ~ 2学期		
テーマ	合唱実技(5)(6) 2学期(7)(8)		
講師	神戸大学名誉教授 齊田 好男		
<p>講義内容</p> <p>合唱実技(5)(6) 1年時の内容より、多少レベルの高い合唱曲を歌ってみる。</p> <p>(7)(8)では、前期までの「合唱実技」の内容を踏まえて、多様なジャンルの中から、3年時の発表を念頭に置きながら、その導入ともなるべき曲を使用し演習を行う。</p>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>当該学年の皆さんの特徴を生かした曲を可能な範囲で選び、3年時の「合唱演習」に結び付けていこうと考えています。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	総合芸術コース音楽文化専攻	学年	2年
講義日	令和6年 6月5日(水)		
テーマ	三曲ものについて、実技鑑賞(2)箏(含:実技)		
講 師	邦楽演奏家 折本 大人樹		
<p>講義内容</p> <p>午前</p> <p>三曲とは何かということの説明(鑑賞も含む)、理解していただき、邦楽への興味を深めていきたい。</p> <p>邦楽の代表楽器の一つである「箏」の実技の基本である構や楽器の扱い方を説明した上で実際に音を出してみる。</p> <p>箏の音色の変化等、音色が個人で違うことも感じていただけるとより理解を深めていきます。</p> <p>午後</p> <p>午前の続きで、箏の基本的な音型「平調子」での曲をいくつか全員で弾いていただき、後半では尺八との合奏を体験して、アンサンブルの楽しさも味わうことができる。</p> <p>最後に講師の演奏で終わります。</p>			
<p>講師からのメッセージ</p> <p>邦楽器の「箏」を皆で演奏する楽しみ、個人の音色の相違など実際に演奏して体感していただきます。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	2年
講義日	令和6年5月27日(月)、6月24日(月)、7月17日(水)		
テーマ	日本民謡・民俗芸能(1)～(6)		
講師	神戸大学名誉教授 岩井 正浩		
講義内容	1・2限 日本民謡①②＝仕事歌の系譜・沖縄、アイヌ 3限 日本伝統芸能＝歌舞伎、狂言 4限 板東俘虜収容所の音楽活動と「第九」初演		
講師からのメッセージ	図書館に「民俗文化の伝播と変容」をはじめとした参考図書があるので利用することを勧めます 伝統芸能に関しては、是非劇場に出掛けて体験してください。歌舞伎、能楽、文楽、狂言など		

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	2年
講義日	令和6年5月1(水)、8日(水)		
テーマ	(1)(2)オペラへのいざない (3)(4)オペラ鑑賞		
講師	神戸大学名誉教授 齊田 好男		
講義内容			
<p>(1)(2)オペラへのいざない</p> <p>1.オペラとは</p> <p>2.オペラの種類</p> <p>3.オペラに関わる人々</p> <p>4.オペラにおける声</p> <p>具体的に映像を観て理解を深める。</p> <p>(3)(4)オペラ鑑賞(映像による)</p> <p>「フィガロの結婚」「椿姫」「カルメン」「蝶々夫人」「魔笛」「こうもり」「ラ・ボエーム」 「こうもり」「メリーウイドウ」など著名オペラ・オペレッタより、映像によるオペラ鑑賞を行う。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>音楽の中で一番遠い存在と思われている‘オペラ’ですが、実際は最も人間生活に密接に結びついた表現なのです。歌い手さんは歌唱力とともに、優れた演技者であることが要求されます。すべての表現要素を含んだパフォーマンスが「総合芸術」と言われる由縁です。これを機会にオペラに興味をもち、楽しんでいただければ幸いです。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	2年
講義日	令和6年4月17日(水)		
テーマ	唱歌と童謡		
講師	大阪芸術大学教授 吉良武志		
講義内容			
<p>わが国の唱歌や童謡はどのように誕生したのでしょうか。</p> <p>明治期、学校教育の中に教科「唱歌」として音楽を取り入れた経緯を概観することから始め、「言文一致唱歌」「童謡運動」、戦後の「新しい子どもの歌」と辿っていきます。</p> <p>歴史を学習するだけでなく、その時代に歌われた歌をみんなで歌いながら、音楽文化の流れを感じ取っていただきたいと考えます</p> <p>後半には、小学校の音楽教科書の中から、講義時期に合わせた教材を扱って参ります。</p> <p>I. 音楽の伝来</p> <p>II. 唱歌の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学制 ・伊澤修二の留学 ・メーソン先生との出会い ・音楽取調掛 ・「小学唱歌集」 <p>III. 教育の場に来た世界の民謡</p> <p>IV. 新しい歌の台頭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言文一致唱歌 ・滝廉太郎 ・月刊雑誌『赤い鳥』と童謡運動 ・ラジオとレコード <p>V. 戦後、子どもの歌の新生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『鐘の鳴る丘』(連続放送劇) ・放送番組の変化 			
講師からのメッセージ			
<p>前述の通り、歌いながら講義内容を感じ取っていただきたいと考えます。</p> <p>音楽のない民族はありません。(厳密には楽器を持たない民族はいますが、歌のない民族は存在しません)</p>			